本市の平和事業のこれまで

次世代へつなぐ 平和への願い

平和のために私たちがまずできることは「戦争」や「平和」について知ることです。
本市はこれからもそのきっかけになれるよう平和事業を通じて
「平和の大切さ」を呼びかけていきます。
問 ☎712-8643総務課

平和事業の歩み

1984年（昭和59年）

核兵器廃絶平和都市宣言

11月15日に核兵器廃絶平和都市であることを宣言しました。

核兵器廃絶平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いである。

この普遍の願いにもかかわらず、核軍備の拡張は依然として行われており、人類は核戦争の脅威にさらされている。

わが国は、世界唯一の核被爆国として核兵器の恐ろしさ、被爆者の苦しみを世界の人々に訴え、再び広島、長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち市川市民は、生命の尊厳を深く認識し、国是である非核三原則が完全に実施されることを願い、いかなる国のいかなる核兵器に対してもその廃絶と軍縮を訴え、恒久平和確立のため、ここに「核兵器廃絶平和都市」となることを宣言する。

昭和59年11月15日　市川市

1990年（平成2年）～

平和ポスター募集・ポスター展・カレンダー配布

市内の小・中学校・義務教育学校を対象に、平和ポスターを募集し、入賞作品を掲示しポスター展を開催しています。また、そのうち24作品でカレンダーを制作し、配布しています。

◀令和4年度平和ポスター入賞作品

1994年（平成6年）～

平和寄席

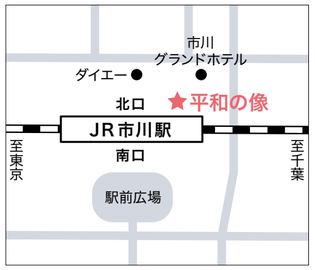
笑いを通して、より多くの方に「平和の大切さ」を訴え、身近なところから平和を考えていく機会として実施しています。

1994年（平成6年）

平和の像

市川駅北口に、「平和の像」があります。この像は「核兵器廃絶平和都市宣言」の趣旨を啓発するシンボルとして、市川市出身の彫刻家である堀川恭氏が制作にあたりました。

古代人が永遠の生命をかたどったとされる勾玉の丸い輪を「生命の樹」とし、その周囲に未来に向かって飛び立つ3羽の鳩と明日に伸びる若い芽吹き、台座部分に愛を誓うつがいの鳩を造形的に配置し、永遠の夢と希望を願う平和のシンボルとして構成表現されています。



平和の像（市川駅北口）

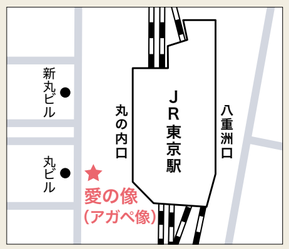
▲平和の像（平成6年3月設置）

東京駅に市川市ゆかりの像があります

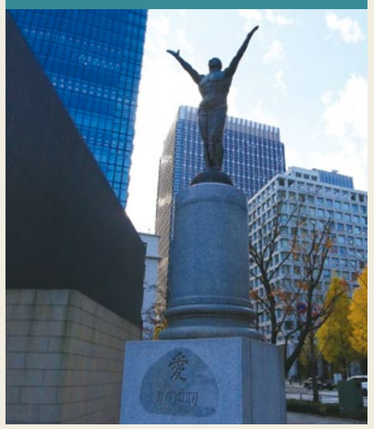
東京駅丸の内広場には、世界平和を祈願する「愛の像」（アガペ像）があります。

この像は、名誉市民である中村勝五郎氏の尽力で昭和30年11月に建立されました。

アガペとは、ギリシャ語で神の人類に対する愛、無償の愛という意味です。直立して空へ両手を広げる姿は、世界平和を願う気持ちを表しています。戦時中、多数の兵士が出征した東京駅前にあり、二度と戦争をしてはならないという思いが込められています。台座を含めて約8メートルある大きな像です。



愛の像（アガペ像）（東京駅丸の内広場）


▲愛の像（昭和30年11月建立）

1997年（平成9年）～

平和の折り鶴事業

平和の願いを込めた折り鶴を募集し、寄せられた折り鶴を広島・長崎に送っています。

また、平成12年より広島・長崎へ折り鶴を送る前に、メディアパーク市川で展示しています。

2012年（平成24年）～

平和パネル展と被爆体験講話

原爆投下日や終戦記念日にかけて、平和について考える機会としてアイ・リンクタウン展望施設でパネル展と被爆体験講話を開催しています。

実際に被爆された方の講話の動画を市公式 YouTube チャンネルで配信しています（下記2次元コード参照）。

▲広島市の原爆被害と核兵器のこと

▲長崎市の原爆被害と戦争のこと

2020年（令和2年）

戦時下の市川市の紹介

昭和19年11月24日から昭和20年3月10日までの間に多くの空襲被害を受けています。

当時の市川市域の暮らしや空襲被害を伝える動画を市公式 YouTube チャンネルで配信しています（下記2次元コード参照）。

▶昭和20年2月空襲時の新田

2月7日は「北方領土の日」です

北方領土とは、北海道の北東洋上に連なる択捉（えとろふ）島、国後（くなしり）島、色丹（しこたん）島及び歯舞（はぼまい）群島のことです。

これら北方四島は、第二次世界大戦の終了直後にソ連軍によって不法に占拠され、ソ連が崩壊しロシアとなった現在でも、その状態は続いています。

この機会に、北方領土の返還要求について考えてみませんか。

▲内閣府のwebサイト